

2016年
クイーン倶楽部だより 9月号
第163号

ERN 有限会社エコ・ライス新潟
新潟県長岡市脇川新田町字前島970-100
TEL 0258(66)0070 FAX 0258(66)0447
URL <http://www.eco-rice.jp/>
E-mail eco-net@nekonet.ne.jp



28年産新米

稲刈りまであとすこし!

コシヒカリの稲刈りまであと2週間ほど。
エコ・ライス近くの田んぼに稔ったコシヒカリも、頭を垂れて稲刈りを待っています。
今のところは、大きな天災ありませんが、暑すぎる気温とこれからの台風の襲来が心配です。
10月からの新米のお届けまで、もう少しお待ちください!

連日30度超えの中、田んぼには赤とんぼもちらほら飛び始めました



一足先に 酒米種籾を刈取りました

酒米『たかね錦』の種もみの圃場。
上の写真のコシヒカリはまだ青々としていますが、たかね錦は黄金色に色づいています。
種もみは他の品種と混同しないよう、一番初めに刈取りします。この後水分調整をし、来年の田植えまで保存します。



中村 信也(なかむらのぶや)

医学博士。東京家政大学家政学部栄養学科教授として教鞭をとり、「食と医療」の医療薬膳研究の第一人者として活躍中。

ドクター "N" の

私にも 一言言わせて

その 17

※ドクター…英語で博士の意味

中高校で何があった

ある日、研究室でゴキブリがでたと卒業生達が騒いでいる。全員恐怖で顔を青ざめフリーズしている。何故にゴキブリ一匹で恐怖に慄ぎ、大騒ぎするのか不可解である。蚊や蠅一匹にも同様反応である。学生全員が昆虫の存在を許さないのである。

どうしてそういう反応になるのかが私の興味対象となる。私は不条理なヒトを見ると、「どうして、そういう性格が出来上がったのか」と分析する趣味がある。学生のゴキブリ一匹許さじ、はどうしてできあがったのかを命題にし、分析してみた。

幼稚園、小学校生は逃げる虫を道具にしようと思いつく。一転し、大学生は虫一匹に慄く。このギャップを私は「中、高校で、虫が有害、触ると死ぬ」と洗脳された結果と結論した。有害偏向教育の犠牲者である。

洗脳教育者は先生である。一人の先生では洗脳されない。見事に一致された結果である。教員免許は有っても人間教育の免許のない先生に付き合った結果である。生き物を観察しよう、面白い発見がある、生命は貴重という教育が完全欠如である。先生自体真剣にそう思っているので生徒が知識を吸収してしまう、教育の怖さがある。

中高校教諭には教員免許更新が必要である。研修は最新知識より教員の本質を会得してもらいたい。「一切衆生、悉皆仏性」(生き物は全て仏になれる資格を持つ)というようなことを学んでほしい。

私事であるが、秩父の山中の別荘にいと、色々な昆虫が遊びにやってくる。ある日、熊蜂が指に乗ってきた。よく見ると全身に毛があり撫でてみると喜んでた。学生の髪に熊蜂が留まり、大騒ぎしていたので、友達なので手にほんわりと包み込み、庭で手を広げると飛んで行ったことがる。熊蜂をどうやって殺すかという話ではない。